

JA天白信用
正・准組合員向け
リーフレット

自己改革 実践中!



©笑味ちゃん

 JA天白信用

本資料のお問い合わせ先

JA天白信用本店 総務部

〒468-0055 名古屋市天白区池場二丁目2304番地
電話 052-801-1231 FAX 052-801-1235

(2019年1月30日作成)

 JA天白信用

JJAの自己改革とは

JJAの自己改革とは、都市化の進展や農業就業人口の減少、組合員の高齢化や後継者不足、政府が進める農協改革による組織再編など、農業とJJAを取り巻く環境が大きく変化しているなか、JJAの使命である「地域農業の振興」や「地域づくり」に一層の貢献を行うべく、自らの創意工夫に基づき事業と組織活動を開拓し、「地域の農業とくらしになくてはならない組織」となることをめざす取り組みです。

JJA天白信用の自己改革

JJA天白信用もこれまで、都市農業の振興と地域社会の活性化に向けて事業運営に取り組んでまいりましたが、これからは従来の取り組みをより一層充実させるとともに、総合事業の強みを生かした新たな取り組みを実施し、組合員の皆様から「地域に必要なJJA」とご評価をいただくことが必要であると考えています。

そこで当JJAでは、下記のとおり「JJA天白信用自己改革3大目標」を掲げ、自己改革に取り組んでおります。

【JJA天白信用自己改革3大目標】

- ① 農家所得向上、地域農業の維持・発展へ最大限の支援を行います
- ② 組合員の皆様の声を「拝聴」し「反映」いたします
- ③ 地域住民の皆様の農業応援団化に取り組みます

3大目標

1

農家所得向上、地域農業の維持・発展へ
最大限の支援を行います

新規就農者の育成、中核的担い手への手厚い対応

農業塾の開催

○正組合員の皆様を対象に、座学および実習畑での実習により、初歩の土づくりから収穫、多収技術といった専門的な分野まで幅広い内容で年8回実施し、約50名の皆様に塾生としてご参加いただきました。収穫された野菜は当JJA広報誌の紙面を彩り、「農産物品評会」にも出品されました。



農業ボランティアグループのあっせん

○名古屋市の農業ボランティアグループ「なごやか農楽会」を担い手の皆様にご紹介し、農作業労働力を支援しています。
○名古屋市と連携し、広報等の媒体で農業ボランティアの周知活動を実施いたします。



担い手の皆様への定期訪問

○経済課担当者による「出向く体制」を構築し、定期的に担い手の皆様の畑に出向き、病害虫や栽培管理についてのご相談に応じています。

1

2

農業支援助成金制度の実施

農業機器等 購入助成

正組合員の皆様を対象に、耕うん機、管理機をはじめとした農業機器等の購入金額の2割を助成いたします。

○農業機器等購入助成額

2,537,000円(37件)

(平成28年4月～平成30年12月)

※助成には条件および上限がございます。詳しくは当JAのお近くの店舗までお問い合わせください。

農機レンタル事業の実施

○農作業を効率的に行いたい方、親世代から引き継いでこれから農作業を行う方、生産緑地の維持管理に農機を使用したい方等のご要望にお応えするために「使用するととても役に立つが、購入・所有するのは大変」という農機を選定し、平成31年度上半期を目途に農機レンタル事業を開始いたします。

○料金設定は1日あたり1,000円前後を予定しています。

○当初のラインナップは下記のとおりです。



耕うん機(中型・小型)
(画像は小型)

自走式粉碎機
(ウッドチッパー)

③

農産物の販路拡大・ブランド野菜化

「八事五寸にんじん(天白にんじん)」の 販路拡大・ブランド野菜化

○「八事五寸にんじん」を天白区の伝統野菜かつ「ブランド野菜」に発展させ、市場取引価格を引き上げ農家所得の向上につなげていくため、「八事五寸にんじん」および「八事五寸にんじんのかきあげ」を当JA近隣の大型ショッピングセンターにて、「八事五寸にんじんのれんこん揚げ・ごぼう揚げ」を大手百貨店にてそれぞれ販売いたしました。



学校給食食材の供給

○地元小学校の給食で使用する農産物(にんじん・きやべつ)を供給することにより、販路拡大とともに「地産地消」「食農教育」の大切さを伝える活動の手助けをしています。

「セイロン瓜」の特產品化

○健康新野菜「セイロン瓜」を天白区の特產品とするため、天白区役所と協同して「セイロン瓜プロジェクト」をスタート。扱い手の皆様に苗を無料でお配りして生産されたセイロン瓜をグリーンセンターで販売しております。



④

○大型ショッピングセンターと提携し、管内店舗の惣菜コーナーでも販売したところ、試食の「セイロン瓜のかきあげ」等も好評で、60本を完売いたしました。



○平成30年8月にはテレビ局3社および中日新聞社からの取材を受け、ニュースや新聞紙面にてセイロン瓜が紹介されました。



地域農業の振興と地元農産物のPR活動

行政と連携した各種行事への積極的な参加

- 行政と連携した各種行事への積極的な参加により、地域農業の振興と地元農産物のPR活動を行っています。
- ・名古屋市農産物品評会への協賛(7月 農業センター)
 - ・名古屋市農業センターまつりへの協賛(11月 農業センター)
 - ・天白区農業祭および農産物品評会の開催(12月 天白区役所)
 - ・地産地消スタンプラリーの実施(7月～9月 天白区内農産物直売所)



5

生産コスト軽減、多収技術導入に向けた取り組み

農薬・肥料の価格見直しを実施

- 経済連等との価格調整やフォークリフト導入により仕入価格を引き下げ、販売価格を徹底的に見直すことにより、ホームセンター等の店頭価格に負けない価格設定を実現いたしました。

多収技術導入に向けての視察研修を実施

- 中核的担い手の皆様に、より専門的・実践的な多収技術を習得していただくため、国内有数の無摘果高糖度ミカン園(宮崎県日南市)への視察研修を実施しました。

JA天白信用グリーンセンターの活性化

取扱品目増加のための施策

- 「生産履歴管理システム」を導入し、出荷の際にご提出いただく農薬等の使用履歴を簡単に作成できるようにいたしました。



- 「バーコード管理システム」を導入し、生産者、生産地、品目、価格等が印刷されたラベルを同時に印刷できるようになり、さらに品目ごとの売上データが蓄積されるため生産量等のアドバイスを行えるようになりました。



6

○農業塾の塾生に対し、グリーンセンターへの出荷方法等のご案内、出荷の呼びかけを行っております。

○担い手の皆様と利用者の皆様の交流の場を設けるとともに、高齢者や荒天時にもご来店いただきやすくなるため、駐車場に「テラス屋根・ベンチ」を設置いたしました。



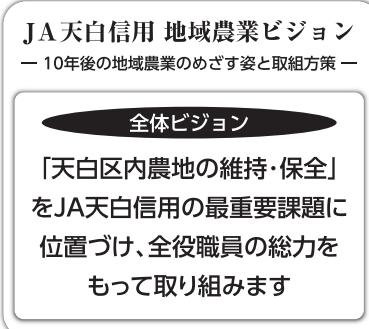
○限りなく新鮮な状態で農産物をご提供できるよう、バックヤードに「大型冷蔵庫」を導入いたしました。

○レジ業務を改善しスムーズにお買いものいただけるよう、「バーコード対応レジ」を導入いたしました。

○お荷物を気にせずにお買い物いただけるよう、「ショッピングカート」を導入いたしました。

次代へつなぐ「地域農業ビジョン」の策定と実現

○「5年後、10年後の都市農業の目指す姿」を策定し、農業者・行政・JAが互いに連携して都市農業の維持・発展に取り組むため、認定農業者、中核的担い手、愛知県・名古屋市・天白区の農政担当者および当JA役職員により「地域農業ビジョン検討委員会」を組織し内容の検討を行い「地域農業ビジョン」を策定し、平成30年度の通常総会にてご報告いたしました。今後は「地域農業ビジョン」の実現のための施策を年度計画に落とし込み、実践してまいります。



地域農業の発展に寄与できる職員の育成

○担い手の皆様をサポートする人材を育成するため、若手職員を中心に中央会が主催する「営農相談員」の実技・学科研修および検定試験の受検を励行・支援するとともに、平成29年度には全管理職および経済事業担当職員が、平成30年度には残りの全職員が「日本農業検定」を受検いたしました。



We love Agri!

3大目標 組合員の皆様の声を ② 「拝聴」し「反映」いたします

職員による正組合員宅訪問活動の実施

夏季・冬季正組合員宅一斉訪問活動の実施

○正組合員の皆様に日頃の感謝の気持ちを直接お伝えするとともに、ご意見・ご要望を真摯に承り、組合の事業等に反映していくことを目的として全職員にて年2回(夏季6月・冬季11月)実施しています。



涉外担当者による正組合員宅定期訪問活動の実施

○涉外担当者をJAと正組合員の皆様とをつなぐ「架け橋」と位置づけ、皆様のお宅へ訪問し、ご意見・ご要望を承る活動を、涉外活動における最重要項目に設定しています。

いただいたご意見・ご要望の反映

畠への訪問等で指導していただきたい

経済課職員により「出向く体制」を構築し、定期的に担い手の皆様の畠に出向き、病害虫や栽培管理についてのご相談に応じています。

農薬や肥料を今より安い価格で購入できたらいい

経済連等との価格調整や、利ざやの徹底的な見直しにより、ホームセンター等の店頭価格に負けない価格設定を実現いたしました。

ATMをもっと利用しやすくしてほしい

現在、本店をモデル店舗として、ATMの営業時間外稼動を実施しております。他の店舗においてもご利用頻度等を鑑みながら順次検討していく予定です。

支部長・組長が行う配付物の範囲が広いため見直してほしい

組合員の皆様向けの配付物は「職員による組合員宅訪問活動」時に併せてお配りし、年4回の広報誌についてはご郵送にてお届けすることといたしました。



3大目標

③

地域住民の皆様の農業応援団化に取り組みます

農業応援につながる企画・還元商品の開発

「農業応援チケット付友だちスーパー定期」の発売

○平成30年1月より、従来の「友だちスーパー定期」をパワーアップし、特別金利に加え、契約金額50万円ごとに、グリーンセンター等でご使用いただける「農業応援チケット(100円分)」を1枚プレゼントする「農業応援チケット付友だちスーパー定期」を販売いたしました。



組合員・利用者の皆様へのチケット進呈額

13,222枚(1,322,200円相当額)
(平成31年1月8日現在)

行政と連携したイベントの開催

「天白区地産地消スタンプラリー」への参画

○天白区が実施している「地産地消スタンプラリー」に当JAも参画。グリーンセンターにスタンプを設置し、イベントを通じて地域住民の皆様に都市農業に触れていただく機会を設けました。

○平成30年度スタンプラリーの抽選には135名の方が応募され、当JA本店にて抽選会を実施。見事当選された35名の方に「農業応援チケット」2,000円分を進呈いたしました。



食農教育の実践

○食農教育では、一般的な食育活動に加えて、それを支える農業や地域、自然との関わりにも注目し、私たちの食を支える全国各地の様々な形の農業活動を知り、体験して頂くことで、これらが担う様々な価値を学んで頂いています。

八事五寸にんじん農場見学

○南山大学附属小学校3年生の児童約100名を対象として、組合員農家の八事五寸にんじん畑にて栽培の工夫や苦労について学ぶ「農場見学」を実施しました。



水田の体験学習への協賛

○名古屋市内小学校で唯一校内に水田を整備している高坂小学校では5年生の児童を対象として「水田の体験学習」が毎年行われており、当JAも水稻苗の提供や脱穀機の贈呈等協賛しております。

平成30年度はもち米の収穫も行いました。

○また同小学校において、児童と当JA女性部とともにもち米を使用したおはぎ作りを行いました。



「農業応援団」となっていただくための施策

「農業応援団」としての意思確認を実施

○地域住民の皆様が当JAの事業をご利用いただく際に「なぜ農業を応援するのか」「どうやって農業を応援するのか」等をご説明し、准組合員への加入とともに「農業応援団」となっていただくお願いおよび意思確認を行っております。



准組合員向け「農産物収穫体験」の実施

○平成30年度より、准組合員の皆様を対象に「農産物収穫祭(収穫体験)」を実施しております。平成30年10月に第1回の芋掘り体験を企画したところ、114件を超えるご応募があり、そのうち20組54名の方に天白管内の相生山緑地内にあるさつまいも畑において収穫体験を行っていただきました。



○今後も様々な農産物の収穫体験を企画し、ゆくゆくは、担い手の皆様の畑をお借りし、種まきから苗の定植、栽培管理、収穫までを体験していただき、体験いただいた方に対しては農業塾や農業ボランティアのご紹介等も行ってまいります。

どうして農業を応援するの?

農業には、いろいろな役割があります。

安全安心な食料の確保



環境保全

■将来の食糧供給に対し
不安がある…83%

資料：内閣府「食料の供給に関する特別世論調査」(平成26年2月)

たとえば、水田の貯水機能は洪水の発生を防止する役割をはたします。田の水面からの水分の蒸発や、作物の蒸散により空気が冷やされ、暑さを和らげる効果もあります。

でも、農業はきびしい状況にあります。

このままじゃ
大変!

農業従事者の減少

1995年
256万人

耕作放棄地の増加

2016年
159万人

1995年
24.4万ha

2015年
42.3万ha

だから、みんなで農業を応援しましょう!

買って応援



JA農産物直売所では、
新鮮な野菜を販売しています。

食べて応援



おにぎり10個で
1mの水田が守られます。

手伝って応援

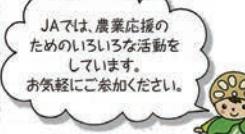


農地の保全活動



援農ボランティア

伝えて応援



組合員の皆様の「願い・想い」を実現するJAとして

JAは、農業者を中心とした組合員が「力を合わせて」共通の願いをかなえるために組織した「協同組合」です。

改革の取り組みは、組合員の皆様に評価をいただいて初めて成果となります。

JA天白信用では、話し合いを通じて組合員の皆様の「願い・想い」を実現するため、今後とも自己改革に取り組んでまいります。

また、自己改革の取り組みを通じて、職員自身も「自分改革」を行い、組合員・利用者の皆様から「JAに必要な職員」「地域に必要なJA」とご評価いただけるよう尽力いたします。

